

令和5年度 第1回教員研修会開催のお知らせ

幼稚園やこども園に新しい子どもたちがやってきて、賑やかな声が響いていることと思います。様々な体験をすることで成長していく子どもたち。その成長には目に見えるものもありますが、目に見えないものもたくさんあります。形にはなりにくい非認知能力といわれるものです。「遊びは学び」というキャッチフレーズのような言葉をよく耳にするようになりまし、皆さんも保護者の方への話題にすることがあるのではないのでしょうか。

2020年に出された「よこはま☆保育・教育宣言～乳幼児の心もちを大切に～」では、一人ひとりの子どもが主体的に周りの環境に関わり、夢中になって遊びこむ中で、様々な学びの芽生えが見えてくると記されています。そして、それが「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」だけでなく「学びに向かう力・人間性」などの成長につながっていきます。遊びを通して自分の可能性や相手の良さを感じることもなります。日々保育をして子どもたちと接している先生方は、目の前で繰り広げられる多くのシーンから感覚的にこの「遊び」と「学び」のつながりを理解されているのではないかと思います。時に立ち止まって子どもたちの成長の機会を得られたら、より学びの部分を意識することができるのではないのでしょうか。

今回、教員研修会では、小学校とのつながり、造形、音など様々な切り口から講師の先生にお話しをさせていただきますが、そのどれもが主体的な遊びと学びの芽生えについて考える機会になるのではないかと考えています。ぜひ、皆様でご参加ください。そして、身近な方とそれぞれの思いを共有していただけたらと願っております。

記

○日 時 令和5年5月17日(水) 14時30分～16時30分(受付:14時～)

○会 場 各分科会案内参照

○申込方法

幼稚園ナビの研修一覧『(横浜) 令和5年度 第1回教員研修会』からお申込みください。
※複数の分科会を受講することはできません。

○申込期間

5月1日(月) 午前9時～5月14日(日) 23時59分

○お申込みにあたって

QRコードでの受付は行いません。出欠確認のために幼稚園ナビからのレポートの提出が必須となります。研修後、参加者様にレポート回答依頼メールが届きますので、出席された方は必ず1週間以内にご回答ください。欠席の場合はレポートの提出は必要ありません。

※メールが届かない場合等、ご不明な点がございましたら横浜市幼稚園協会事務局までご連絡ください。

○欠席者報告のお願い(締切 5月31日)

出席者の把握が困難なため、園長・設置者様は研修会後に欠席者を協会までご報告ください。

※別紙『教員研修会欠席者報告書』参照

第1分科会

講師:田村憲一先生・鈴木暁範先生

(横浜市こども青少年局保育・教育部 保育・教育支援課 幼保小連携担当)

会場:鶴見公会堂(定員:572名)

俯瞰図番号:F1

テーマ:子どもに寄り添おうとするすべての先生方へのエール ～幼保小の実践を通して見えてきたすてきな子どもたちの姿を通して～

「子どもたちがのびのびと活動していて驚きました。小学校って、もっとキチンとさせているのかと思っていました…」

「45分間ちゃんと座っていられるようにさせなきゃと思っていたけれど、違うのですね」

ある小学校の授業をご覧になった幼稚園の先生の感想です。

幼児期の育ちと学びを小学校教育につなげる取組は、多くの小学校で行われるようになってきました。そこでわたしたちが出合った、選りすぐりの実践を紹介します。

自分らしさを発揮する子ども、その姿を引き出す教師や保育者の関わり、そんな職員を支える学校組織や園の存在。そこにはたくさんの「すてきな人」が見えてきます。幼保小を問わず、たくさんの「すてき」を知ることが、みなさんの日々の実践にきっとつながります。すてきな子どもの姿に出会ってみませんか？

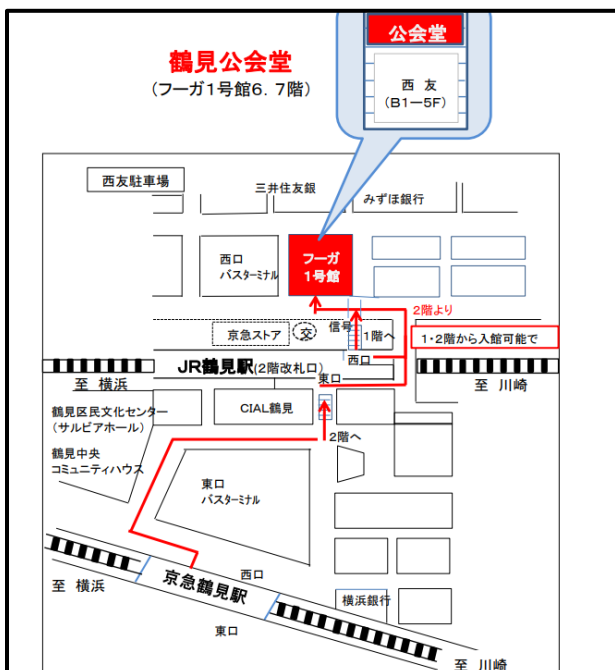
講師紹介

田村憲一先生：

横浜市立小学校で教員を務めた後、教育委員会事務局指導主事と校長職を経て現職2年目。低学年の担任経験がなかったため、幼保小の連携・接続については驚きと感動の連続。子どもたちのよさや可能性と、それを支える保育士・教諭のがんばりを伝えていきたいと願っている。

鈴木暁範先生：

横浜市立小学校で教員を務めた後、教育委員会事務局で指導主事。一昨年度からは現職を兼務し、こども青少年局と教育委員会をつなぐ重要な役割を担っている。生活科や総合的な学習の時間に造詣が深く、子どもたちが夢中になる実践にも数多く取り組んできた。6月に行われる日本保育学会第76回大会自主シンポジウムにおいて、発表者の一人として教員時代の実践を提案する。



〒230-0062

横浜市鶴見区豊岡町 2-1 フーガ1 6・7階

TEL：045-583-1353

交通：JR京浜東北線「鶴見駅」西口下車徒歩1分
京浜急行線「京急鶴見駅」下車徒歩5分
(改札出て西口へ)

第2分科会

講師:佐々木孝先生

(自然素材や身近な材料を用いて学びを創る ff;つちのこ(あーとのひろば)主宰)

会場:南公会堂(定員:559名)

俯瞰図番号: E2

テーマ:子どもの好奇心が騒ぐ時 ～19年間、幼児と過ごした造形活動の記録と記憶～

○分かるとは、好奇心の発見。○創るとは、好奇心の発明。

と、子ども達から学びました。子どもがもつその好奇心の発露にのせて、造形活動を企画・提案し、子ども達の心地よい和む時間と自己肯定感を引き出そうと工夫し、実践して参りました。

この度、造形活動を通して、子ども達の向学心やヒューマニティを育む機会にと9年間実践した中から幾つかを紹介し、提案いたします。共に学ぶ研修会になればと願っています。

○表現とは、心地よいこと。○技法とは、表現が増すこと。

そして、SDGsゴール7の目指す、「高度な教育」とは、他者(者・物・モノ)への想像力にある。ということも視界に入れて、見立ての世界を覗きながら、共に考えていきたいと願っています。

「子どももアートも明日が好き」・「人類学の鍵は、子どもが握っている」のですから…。

講師紹介

横浜市立学校(含む;教育行政・国大附属小学校)を退職し、20年目。

その間、国立大学人間科学部非常勤講師や私立大学共生科学部教授、一般社団法人「杜の家アート&コミュニケーション」執行理事など歴任。

同時に、造形活動の教材開発や子ども・親子の造形講座の企画・運営、子育て支援講演を行っている。

とりわけ、県下9つの幼・保・子ども園の造形活動の講師として、プログラムを提案し、実践的なチームティーチング(TT)を継続している。

絵本

「ヒラベッタイ・ザウルスうまれるよ?!」(文研出版)出版 *2023.1「絵本で読みとくSDGs」(水声社)に推薦・紹介
「ぼくらはみんな生きている」①・②(自主出版)他。



〒232-0024

神奈川県横浜市南区浦舟町2丁目33番地
南区総合庁舎内

TEL: 045-341-1261

交通: 市営地下鉄「阪東橋」駅 徒歩 約8分
京浜急行「黄金町」駅 徒歩 約14分

バス停「南区総合庁舎前」徒歩すぐ
バス停「浦舟町」徒歩 約2分
バス停「阪東橋」徒歩 約8分

第3分科会

講師:吉永早苗先生(東京家政学院大学現代生活学部児童学科教授(副学長))

会場:戸塚公会堂(定員:568名)

俯瞰図番号: B3

テーマ:音からひろがる子どもの世界

「どいーじゃー、どいーじゃー」と声を出して遊ぶ2歳の1くんの手にはミニカーがありました。このミニカーは、何だと思いませんか?彼は、救急車を走らせる時には、「ピーポーピーポー、ピーポローピーポロー」と、ドブラー効果を音高変化も加えながら擬音で表現していました。

子どもは、私たちが考えている以上に、身の回りの人の声やモノの音、あるいは自分がつくり出す音をしっかりと感受して、遊びのなかで表現しています。音楽表現においても、こうした彼らの感性は、保育者のちょっとした声かけに刺激され、感受が深まり表現に工夫が生まれます。子どもの感性と表現の世界を「音」を切り口として一緒に考えてみませんか?きっと、さまざまなアイデアが思い浮かび、音楽表現遊びの幅が広がることと思います。

講師紹介

岡山県出身。岡山大学教育学部中学校教員養成課程音楽教育専攻、岡山大学大学院教育学研究科音楽教育専攻、白梅学園大学大学院子ども学研究科博士課程修了。

ノートルダム清心女子大学家政学部児童学科に助手として採用され、講師、助教授、准教授、教授、大学院教授を経て、2016年4月より岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻教授・同大学院教授ののち、2018年4月より東京家政学院大学現代生活学部児童学科教授。2021年より副学長。

過去、ピアノリサイタルや合唱等の伴奏、合唱指揮、「音楽から聴こえる物語、物語から聴こえる音楽」をテーマとした『音の絵本』の新作発表のピアニスト等も経験。

単著

『子どもの音感受の世界—心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探究』萌文書林 2016

『音からひろがる子どもの世界』ぎょうせい 2021

共著

『保育士キャリアアップ研修テキスト 保育実践』中央法規 2019、

『保育専門職と保育実践—保育実習/保育内容の理解と実践』全国社会福祉協議会 2019、

『子どもの活動が広がる・深まる 保育内容「表現」』中央法規 2022 など



〒244-0003

横浜市戸塚区戸塚町1 2 7

戸塚センター3階

TEL 045-862-3334 ・ 3335